

社会減対策

「産業・労働」

基本目標① 郷土の生業を創る

- 年間観光入込客数：40万人（←191,863人）
- 年間商品販売額（小売業）：160億円（←147億円）

（1）「日本遺産認定のまち」と「のへじ北前文化」による誘客促進

- 物販施設の売上高：年間40,000千円（←年間34,000千円）
- PRセンター来場者数：年間35,000人（←年間30,944人）

（2）地域の資源を活かした魅力づくり

- 起業者：5年間で累計5件（←未開発）
- 施設・設備環境整備件数：5年間で累計5件（←未整備）

（3）空き店舗・空き家等を活用した地域の活性化

- 相談件数：5年間で累計15件（←1件）
- 起業件数：5年間で累計10件（←3件）

（4）荒廃農地の解消による農業の活性化

- 荒廃農地からの解消面積：5年間で累計15ha（←0ha）

社会減対策

「生活環境・生活基盤」

基本目標② 郷土の住みやすさを実現する

- 移住世帯数：5年間累計10世帯（←年間2世帯）
- ※本政策パッケージ等を活用して町外から移住した世帯数

（1）当町への移住希望者増加計画 ≪関係人口創出対策≫

- 体験移住者数：10件（←7件）
- ①就農移住体験ツアー、②お試し移住支援金事業補助金、③移住・交流推進事業

（2）当町への移住・定住推進計画 ≪転入推進・転出抑制対策≫

- 移住施策制度利用件数：10件（←3件）
- ①野辺地町移住支援金交付金、②空き家・空き店舗バンク活用促進事業補助金、③子育て世代住宅助成制度、④浄化槽設置整備事業補助金、⑤地域おこし協力隊制度

（3）ごみの排出量削減による住みよいまちづくり

- リサイクル率：12.0%（←10.5%）

（4）自主防災組織の団体数増による災害に強いまちづくり

- 自主防災組織数：5年間で累計13団体（←8団体）

自然減対策

「福祉・保健・医療」

基本目標③ 郷土の人の身体と心を守る

- 出生数：現状より増加（←63人）

（1）子育て支援体制の強化

- 無償化を実施した場合の給付対象児童（子ども医療費）：671人（100%）（←412人（61%））
- 実施率（下記、妊産婦等への支援）
- ①対象者への支援プラン実施率：100%（←50%）
- ②妊婦訪問実施率：100%（←100%）
- ③新生児乳児訪問実施率：100%継続（←100%）

（2）安心して日常生活を送ることができる医療・福祉環境づくり

- 妊婦健康診査等交通費助成事業の利用者：産後1か月経過した産婦の申請100%（←91.89%）
- 利用率（下記、妊産婦等への支援）
- ①マタニティサロン利用率：25%（←11.8%）
- ②妊婦健康診査公費助成の利用率：100%（←98.9%）
- ③妊婦の救急時対応に備えた消防署への情報提供者割合：100%（←90%）
- ④新生児聴覚検査費用助成利用率：100%（←未実施）
- ⑤乳幼児健診におけるフッ素化合物塗布事業利用率：100%（←未実施）
- 就労世代の健診受診率
- ①胃がん：45%（←19.9%） ④子宮がん：45%（←21.0%）
- ②大腸がん：45%（←25.8%） ⑤乳がん：45%（←30.4%）
- ③肺がん：45%（←25.2%） ⑥前立腺がん：45%（←8.8%）

社会減対策・自然減対策 共通

「教育・歴史・文化」

基本目標④ 郷土をますます愛し育む「人財」を育てる

- 地元高校への進学率：55%（←46.5%）

（1）野辺地町の将来を担う人財「野辺地っ子」の育成

- 町内高校の4年生大学進学率：35%（←22.8%）
- ①予備校等の講師による短期講習会の開催
- ②海外短期語学研修費用の助成
- 文化財活用件数（学校利用含む）：5年間で累計20件（←3件）

（2）スポーツを通じた心身ともに健康な人づくりの推進

- 下記の入賞者数
- ：全国大会入賞者 <個人>年間 2人（←2人）
- 〃 <団体>年間 4団体（←4団体）
- 東北大会入賞者 <個人>年間 12人（←11人）
- 〃 <団体>年間 10団体（←3団体）
- 事業利用者数：毎年度600人（←512人）
- ①室内運動、②ポールウォーキング、③筋膜リリース、④水中運動